

広報TSB

TOHOKU SEIKATSU BUNKA
UNIVERSITY & JUNIOR COLLEGE

第10号

平成28年度 後期

教学の改革

東北生活文化大学・東北生活文化大学短期大学部

学務室長 鈴木 裕行



本学の教学をめぐる昨今の状況について少し述べたいと思います。

変化の激しい現在の社会において、個人の能力向上のための大学教育は益々重要性を増しており、その教育内容・方法についても日々、改善を迫られています。具体的には、大学として体系的で組織的な教育活動を展開すること、学生の能動的・主体的な学修を促す取組みを充実させることや学修成果の可視化やPDCAサイクルによるカリキュラム・マネジメントの確立、などに取り組みむことが求められています。それを受けて本学でもここ数年、授業体系を整備し各授業のカリキュラム全体の中の位置付けを明確にするカリキュラムマップの作成や授業ナンバリングの実施、個々の授業の目的・授業内容を学生に正しく理解させ、適切な事前・事後学修をさせるためのシラバスの改善、評価基準を明確にし、自ら学修目標を設定させるための評価ループリツクの導入の検討などを、教務委員会を中心として取り組んでまいりました。

一方で、平成二十八年三月三十一日に公布された「学校教育法施行規則の一部を改正する省令」により、各大学・短大でディプロマポリシー

(卒業の認定に関する方針)・カリキュラムポリシー(教育課程の編成及び実施に関する方針)・アドミッションポリシー(入学者の受入れに関する方針)の三ポリシーの策定と公表が義務付けられました。三ポリシーは本学を含め多くの大学で既に公表されていますが、今回の省令は三つのポリシーが一貫性のある明確なもので、教育に関する内部質保証を確立する起点となることを求めています。したがって、本学においても従来の三ポリシーの見直しが必要になり、各学科と将来構想検討委員会が連携して作業に取り組んでいます。今後は新たなカリキュラムポリシーを踏まえて、上記の教育活動の様々な取り組みを修正し、より充実させていくことが必要になります。

本学園の教学の理念には「高い知識と技術を修め、常に文化創造に寄与する、清く、正しく、健全な人間の育成を目指す」とあります。本大学・短大は建学以来の実学教育の伝統を受け継ぎ、長年にわたり家政学教育に軸足を置き、とりわけ衣生活・食生活・子どもの生活の各分野で、人々の生活の向上を図るための知識と技術を修め、それをもって創造的な文化発展に寄与できる人材を育成すべく教育活動を行ってきました。しかし、近年の大学・短大を取り巻く厳しい状況においては、従来の教育活動だけでは不十分で、社会のニーズに合致するとともに、他学には無い独自性のある新たな教育内容の提示が不可欠です。先人により蓄えられた学園の学術・教育の資産・資源を活用するのはもちろん、家政学各分野と美術の融合により新たな価値を生み出すような改革を図ることが必要かと考えています。

関係各位の皆様にも今後より一層のご指導・ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



大学家政学科

短信



平成二十八年度下半期の家政学科の様子をお伝えします。

九月二十日より後期授業が開始され、学生たちは勉学と各種課外活動に日々励んでいます。

前後しますが、九月十三日から十六日にかけて服飾文化専攻二年生の研修旅行(家政特別講義II)が実施されました。今回の行き先は首都圏方面で東京農工大科



学博物館、東レACS株式会社、シルク博物館等七施設を見学し、繊維の科学と歴史、APARL CADシステムの企画・開発や服飾産業、生活の歴史等の見聞を広めました。

十月二十二・二十三日に開催された大学祭では、今年も健康栄養学専攻の学生たちは組織力とマンパワーで運営に大きく貢献しました。恒例のファッションショーでは、服飾文化専攻を主とする学生たちが運営スタッフ、デザイナーやモデルとして活躍し、立派な公演となりました。

十一月二十日には宮城県栄養士会主催の「いい日いい汗栄養まつり」に多数の健康栄養学専攻学生が参加し、来場者へ食事と栄養の重要性を説く食育ステージの出演を始め、各種ブースのスタッフとして活躍しました。

十二月二十七日には家政学専攻・服飾文化専攻卒業生ホームカミング(服飾文化専攻十周年記念イベント)が開催されました。卒業生・在学生合同のファッションショーと懇談会や新任教員、同窓会員および在学生が親睦を深めました。

十二月十日には課題研究発表会が開催され、三年次後期からの約一年半にわたる、各研究分野での研究活動の成果

が発表されました。

年度末を迎え、期末試験も終わり、四年生は社会へ旅立つ準備を着々と進めており、間もなく卒業を迎えます。三月十九日には管理栄養士国家試験があります。受験する健康栄養学専攻四年生には遺憾なく実力を発揮してもらいたいものです。

最後に人事の異動ですが、九月三十日付で中川美希助手、遠藤彩紗助手が退職され、後任に佐藤あゆ美助手、加藤祐史助手が十月二日付で赴任されました。また、三月三十一日付で川村奎子教授、片山正文教授、加藤浩文教授、加藤ゆき助手、山田芳恵副手が退職されます。ご退職の方々の長年にわたる教育へのご尽力に深く感謝申し上げますとともに、今後のご健勝をお祈り申し上げます。

大学生生活美術学科

短信



平成二十八年度後半の活動は、美術鑑賞旅行(二年次)、博物館実習旅行(三年次)、大学祭、学科内コンクール(最優秀賞二年小山和奏さん)、卒業制作展等実りの多いものになりました。現在担任二人で学生を支援しております。教員も美術家として社会で活動し、学生の先輩とも言えます、ご心配な点があればいつでもご相談ください。

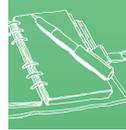
学生、教員の活動の一端を紹介します。六月SARPPで森教授、鶴巻講師、学生、卒業生とのコラボ展、七月、ギャラリーエチゴで「版画ゼミ展」。盛久ギャラリーで「教員卒業生展 in 盛岡」。八月、晩翠画廊企画「教員展」、同時に卒業生のホームカミングデー。「第二回展会展」有志参加、ギャラリーエチゴ。「女展」二年女子有志、ギャラリーエチゴ。九月、宮城県芸術協会公募展絵画部門で四年長岡桜子さんが賞候補、彫刻部門で二年遠藤陽介さんが入選。十一月「漆芸、染織、陶芸ゼ

ミ有志展」ギャラリーdot。「泉区民文化祭」参加。十二月「絵画、デザイン、壁画合同ゼミナール展」、メディアテーク。一月「版画ゼミナール三年黒田萌さん、佐藤真奈さんが若手大学版画研究室と交流展。二月学科内コンクール最優秀賞受賞者展」が晩翠画廊企画で開催。「版画ゼミナール展」が東北電力グリーンプラザ。三月「学科内コンクール最優秀賞受賞者展」三年千葉達仁さん、ターニアアラウンド。その他三年中村望乃さんが「第四回ジーン月杯」銀賞、「第六回いわてマンガ大賞」で大賞受賞。瀬戸教授による公開制作、宮城県美術館創作室で十二月と二月。また本学の地域連携事業で学生・教員が活躍。今年度は十二件の全国、地域イベントに参加しました。二十八年三月卒業の相澤郁恵さんのビッグコミック増刊号に連載中の漫画「モディリアーニ」が単行本として発刊され好評を受けました。その他教員、卒業生の発表活動も充実し、大いに在学生の刺激になっています。



短大生活文化学科

短信



今年度の短期大学部は、学生たちがそれぞれ自分の目標に向かって努力し、無事に過ごすことができた二年間だったと思います。後期の主な行事を振り返ってみたいと思います。

学科の行事

○十月二十二日・二十三日 大学祭

食物栄養学専攻はヘルシーレストラン、子ども生活専攻は

ファンタジーランドを行いました。

食物栄養学専攻

一年生の実習

○八月～十月 栄養士基礎演習

二年生の実習

○六月～十月 給食管理実習Ⅲ(校外実習)

保育所、陸上自衛隊駐屯地、特別養護老人ホーム、小学校(前期六月)に分かれて、五日間の校外実習が行われました。

二年生の実習

○三月二十二日 校外実習報告会

子ども生活専攻

二年生の実習

○十月 幼稚園実習

一年生の実習

○九月～二月 保育所基礎実習・幼稚園基礎実習・施設見学実習・子ども園見学実習

○二月二十二日・二十四日

附属ますみ幼稚園の園児を招いての活動(運動遊び)を行いました。短大と附属幼稚園が連携して、双方にとって有意義な教育活動を行っています。

二年生の実習

○二月二日 幼稚園教育実習・保育実践報告会

地域貢献活動

地域への貢献も本学の使命の一つです。後期に学生ボランティアが参加したものの一部をご紹介します。



ワクワクふるじえくと

—地域連携活動—



「ワクワクふるじえくと」は、各学科専攻の学生と教員がタッグを組み、専門分野を生かして「まちに住む人がワクワクできる地域連携活動」です。

●ミシン縫いボランティア



服飾文化専攻

岩沼市立岩沼南小学校6年生の家庭科の授業に服飾文化専攻の学生が赴き、ボランティアでミシンやアイロンの使い方について、指導してきました。

●第13回「いい日いい汗 栄養まつり」



健康栄養学専攻

毎年恒例の「栄養まつり」。食事バランスチェックや健康相談、各ブースの補助、さらに食育の大切さを来場者にわかりやすく説明する食育ステージイベントなどを行いました。

●GAMA ROCK FES 2016「うちわを作ろう!」



生活美術学科

塩竈市みなと公園において、今年で5回目を迎えたGAMA ROCK FESを開催☆昨年に引き続き、ARTブースにおいて、「うちわを作ろう!」ワークショップを実施しました。

●親子料理教室



食物栄養学専攻

虹の丘児童センターから親子20組をお招きし、「親子料理教室」を開催。親子一緒に時間を楽しみながら、ビザバイとコンソメスープを作りました。

●のびのびくらぶ「お兄さんお姉さんと遊ぼう」



子ども生活専攻

親子の遊びの実践の場「三島学園子育て・家庭支援センターののびのびくらぶ」において、工作や手遊び、ペープサート(紙人形劇)などを企画し、子どもたちに楽しんでもらいました。

「ワクワクふるじえくと」は、webサイトならびにFacebookページで最新情報をご覧いただけます。

ワクワクふるじえくとweb
<http://www.mishima.ac.jp/info/wakuwaku/>

本学Facebook
<https://www.facebook.com/mishima.tsb>

○八月～九月 みやぎ県民大学講座「調理の科学と食の安全」 食物栄養学専攻

○八月四日 ボランティアグループリーダーズカフェ

「いずみボラカフェ」(二〇一六) 子ども生活専攻

○九月三日 のびのびくらぶ「親子料理教室」 食物栄養学専攻

○九月二十四日 虹の丘児童センター「おさかな食育」 食物栄養学専攻

○三月一日 のびのびくらぶ「短大のお兄さん・お姉さんと遊ぼう」 子ども生活専攻

○三月九日 田子児童館「よちよちクラブ」 子ども生活専攻



大学服飾文化専攻 1年

八月にアパレル企業研修があり、産業についての講義と、生産から店頭に至る商品流通の過程を見学しました。初めての学外研修でしたが全員の積極的に臨む姿勢が見られました。また九月にはCOC+事業による宮城県内の企業での一日インターンシップに希望者が臨みました。後期の学習では科目や課題等が前期より増えました。今期も熱心に落ち着いて取り組む様子が見られました。二月には、大半の学生が授業の貫で、企業でのファッションビジネス実務実習に臨む予定です。また一年次の秋には三泊四日の研修旅行が予定されています。

大学服飾文化専攻 2年

早いもので大学生生活四年間の折り返し地点が見えてきました。お陰様でこの四月には、休学者一名を除く十二名の学生のみならずについては、無事に三年生に進級出来る事が現時点で決定しております。言うまでもなく、三年生に進級しますと次の針路を考えなければならぬ状況が生まれます。このような中、昨春秋には社会で活躍するOG・OBを講師に招き貴重なお話を聞く機会を設けましたが、その際に普段の講義以上に積極的な質疑応答があり、その意味で次のステップへの意識の高いことがわかり頼もしく感じました。ただ、個人面談をとって全般的に感じていることは、まだまだ目の前に迫りつつある職業選択については、心が揺れ動いているという印象を抱いております。三年生に進級した直後から始まる個人面談では、職業選択に対する意識を高める方向で臨みたいと考えております。

大学服飾文化専攻 3年

一月二十日に課題研究I発表会が開催されました。学生の皆さんは初めての研究発表ということもあり緊張の面持ちで臨まれましたが、四ヶ月間にわたり取り組んだ研究成果を「しっかりと伝えたい」という思いの伝わる充実した発表会となりました。課題研究は研究成果を得るだけでなく、課題の届け方、物事の考え方やまとめ方を身につける機会でもあります。苦しいこともありますが、四年次の課題研究IIを履修してもう一段成長していただければ...と思っています。

卒業まであと二年となりました。学生の皆さんには残り少ない学生生活を悔いの無い充実したものとしていただけたら幸いです。

大学服飾文化専攻 4年

服飾文化専攻四年生の卒業予定者は十一名(女子九名、男子二名)です。大学生生活も残り一か月です。就職希望者は九名で、このうち内定を得ているのは二月下旬の時点で七名(女子五名、男子二名)です。内訳はアパレル四名(全員女子)、その他サービス三名(女子一名、男子二名)となっています。卒業が近づくにつれ、少しずつ良い報告が届くようになりました。「衣料管理士二級」の資格も九名(女子八名、男子一名)が取得できる見込みです。しかし、履修単位をそろえることが喫緊の目標である学生が数名います。全員が笑顔で卒業できるように願っています。

大学健康栄養学専攻 1年

夏休みが終わり後期が始まりました。全員そろってのスタートとなりました。十月の大学祭では焼鳥の出店をしました。タレにこだわったその焼き鳥は大好評で、見事「出店部門」において最優秀賞をいただくことができました。十二月には四年生の課題研究発表会を初めて聴講しました。管理栄養士受験資格を得るのが第一ではありますが大学は研究機関でもあります。幅のある職業人となるため、三年後の自分たちの姿を想像することができたのではないかと

思います。そして年が明け一月には後期試験がありました。二年生からは専門教科も多くなり、より実践的となります。頑張ってくださいと思います。

大学健康栄養学専攻 2年

二年生の後期は実習や研修などがあり、これまで以上学業に励む姿が多く見られました。家政特別講義IIの見学研修では富谷市学校給食センターと鐘崎笹かま館へ行きました。給食センターでは調理現場の見学や所長さんと栄養士さんから施設の説明をしていただき大変参考となり、臨地実習に向けての心構えが出来たと思われます。給食管理実習では、初の大量調理に挑み悪戦苦闘しながらも協力して行う難しさと達成感を学んだと思います。大学祭等の学友会活動では本クラスの学生が主体となり活躍して大学全体を盛り上げる役割を果たしていました。三年生ではそれぞれの進路に向けてより一層前進することを願っています。

大学健康栄養学専攻 3年

三年生は、二月までの間に栄養士・管理栄養士の業務を学ぶ「臨地・校外実習」を二回体験しました。実習では、実務に触れることにより、社会人としての心構えや仕事に対する責任感、他職種との連携、コミュニケーションのとり方等、貴重な体験をしてきたと思います。又、実習を通して、就職先も意識し始めているようです。春休みには、国家試験対策としての模擬試験や公務員セミナー、就職の合同説明会も開催され忙しい日々となりそうです。

今後ともに、担任といたしましては健康面や精神面に注意を払いながら見守っていきたくと思っております。

大学健康栄養学専攻 4年

四年間の大学生生活も残り僅かとなりました。多くの学生は就職先が決まり、管理栄養士国家試験に向けて、基本・基礎を繰り返しながら、これまで以上に勉強に力を入れている姿が見受けられます。また、これからの時期は寒暖差が大きいため、健康管理を第一に

考えて日々を過ごし、卒業の時を迎えてもらいたいと思います。
未来に向かって、何事も諦めず、努力を重ねて素晴らしい人生を
創ってもらいたいと願っています。

大学生生活美術学科 1年

今回は、「たより」をお休みし、数字のお話しをします。

この時期、気になるのが、学生生活二年目の取得単位数のことです。百二十四単位が卒業要件ですので、一年で三十一単位を取得すれば、ノルマを満たしたことになるのですが、実際には、三、四年次に三十二単位以上の取得を継続するのは少し大変ですので、できれば「貯金」があったほうが安心です。1年次終了時点で、取得単位数が五十を超えた方、安心せずに、高い目標を意識して下さい。四十を超えた方、気を緩めずに今のペースを維持しましょう。四十を下回った方、来年度、少しペースを上げましょう。

大学生生活美術学科 2年

九月に美術鑑賞旅行、十月に大学祭・学科内コンクールがありました。これらの刺激と学びは、人生の中で大変貴重なものとして心に残るでしょう。

十二月、コース制のための選択調査を行いました。まだ迷っている学生も見受けられますが、将来を見据えて決めてください。

新年度からは、ゼミやクラブ活動等で大学の中心的役割を担う学年となります。また資格取得、就職活動と、同時に多くのことをこなしていきますので、今から健康面と心の準備をしていただき元気づけたいと思います。今後の活躍を期待しています。

大学生生活美術学科 3年

三年次後期は、それぞれのコースの専門を活かした授業を選択し、新学期から始まる卒業研究の本申告を終えたところです。

春休みには、東京幕張メッセで開催される大規模合同企業説明会、仙台市内で開催される就活セミナー、地元開催の事業所見学ツアー、自力でインターンシップに公募し、合格して約三週間の研

修に入る学生もいます。また、学内開催の女子学生限定のリクルートメイクセミナー、公務員試験対策講座春期集中セミナーなど、積極的に参加しているようです。四年次では教育実習、就職活動、卒業制作と健康面に気をつけて自分らしさを表現して欲しいと願っています。

大学生生活美術学科 4年

後期の授業も終わり、大学四年間の学修の集大成ともなる卒業研究の提出、審査が行われ、二月十日(金)～十五日(水)せんだいメディアテーク五階において、第四十九回生活美術学科卒業制作展が開催されました。各々が学んだ貴重な経験を感じ取ってくれたのではないかと思います。

学生たちはこうした合間を縫って、就職希望先の面接や試験等、就職活動にそれぞれ奔走して参りました。就職状況は好転の兆しはあるものの、依然厳しい状況が続いておりますが、未内定者は就職活動を諦めずに継続しているところです。挫けず皆で乗り越えてくれることを期待しております。

短大食物栄養学専攻 1年

食物栄養学専攻一年生は後期に入って短大生活にも大分慣れた様子が見受けられます。クラス全体が和やかな雰囲気の中、栄養士を目指して勉学に励んでおります。さらに、食生活アドバイザー試験に挑戦する者、サークル活動を楽しむ者、オープンキャンパスや料理教室などのボランティア活動に参加し、高校生や地域の方々と交流する者、二年という短い期間ではありますが、各々目的意識を持って充実した短大生活を送っているようです。

春には頼もしい先輩として新入生を迎え、校外実習や就職活動にも積極的に取り組むことと期待しております。

短大食物栄養学専攻 2年

昨年十一月までに二週間の校外実習を終えた学生たちは、高齢者施設や保育所等で栄養士としての実務と役割を体験しました。先

日行われた実習報告会では、自分たちが経験し感じたことを振り返りながら、短大での学びの大切さと現場でしか学び得ない事柄について、後輩諸君に熱心に語ってくれました。学生最後の期末試験も無事終了し、入学から一緒だった三十九人は、就職や進学、あるいは地元や県外へとそれぞれ異なる道を自ら選択し、新たな一歩を踏み出そうとしています。悩み、苦しみつつも途中で挫けずにみんな卒業を迎えられる喜びを共に噛みしめながら、彼らを笑顔で送り出したいと思います。

短大子ども生活専攻 1年

子ども生活専攻の一年生が入学して、早くも一年が経とうとしています。

後期に入つてすぐに、十月に開催される大学祭の準備が始まりました。子ども生活専攻では、「ファンタジーランド」という子どもと遊ぶ場を作っています。皆で協力して劇や装飾、遊びのコーナーを作り上げるといふことで、様々な苦労があったようです。しかし、当日は来場者を楽しんでいただけただけで大きな喜びと充実感を味わえたことと思います。

三月には、二回目の基礎実習や、ボランティアの機会があります。今後も二つの実習や行事、勉強に真剣に取り組む、二年生になる準備をしてほしいと思っております。

短大子ども生活専攻 2年

十月上旬からの四週間、短大生活で最後の実習となる「幼稚園教育実習」を経験してきました。日誌や指導案作成など、つらく大変なこともありましたが、子どもたちから元気とパワーをもらいながら、たくさんさんのことを学び、大変充実した実習生活を過ごせたようでした。そして、後期は就職活動も本格的に始まりました。それが自身の進路について真剣に悩み、考え、積極的に園見学、面接を受けに行く姿が見られました。内定をもらった学生は、ここからが新たなスタートです。これまで学んできたことを最大限に生かして、立派な社会人になってほしいと願っています。個性豊かな六十二羽のヒナたちが、自信をもって大空へはばたけるよう応援しています。

大学 家政学科 教授

菅並 茂樹

専門分野: 教育制度、教育政策、教育法、教育課程
主な担当科目: 教育原理、教育制度論、教育課程論、教職実践演習



明治政府は教育による国家経済の発展を主目的として、小学校令など諸学校令を制定し学校制度の充実を計りました。小学校令では尋常小学校4年間を義務教育とし、国民には就学義務が課せられました。しかし、小学校令には就学猶予、免除の規定があり、その対象として心身の障害と共に家庭貧困が挙げられました。明治30年代になると、わが国の工業は繊維工業を中心に急速な発展をし、小学校令が学齢児童の就労を禁止しなかったこともあって多くの学齢児童が雇用され、労働児童の教育機会の保障が大きな問題になりました。明治44年に工場法が制定され、同施行規則は雇用主による学齢労働児童の教育機会保障義務を規定したことで法令上問題は解決するものの、多くの貧困児童が働く零細工場には法が適用されないなど様々な課題を抱えていました。さらに、就学を免除、猶予された者の教育機会の保障は考慮されず、彼らは社会事業の対象として保護されようとしてきたのかを、当時の官民の作成した様々な文献資料を基にして考察することによって、明治期～大正期の義務教育政策の特質や矛盾を明らかにしようとしてきました。そして、このことを通して、教育の機会均等(特に義務教育における)の問題を考えてきました。

戦後は、日本国憲法第26条「教育を受ける権利」の下に義務教育制度が整備・確立され、社会保障も格段に充実しましたが、それでも昭和20年～30年前半の長期欠席児童の欠席理由を見ると「家庭貧困」が挙げられている児童生徒がかなりいます。子どもの貧困と教育格差の拡大は現在社会問題となっており、子どもの教育をどのように保障していくか考え続けていこうと思います。

大学 生活美術学科 教授

佐藤 淳一

専門分野: 彫刻
主な担当科目: 彫刻基礎I、彫刻基礎II、彫刻I、彫刻II、課題研究I、II、卒業研究



私は、主に石彫を中心に具象、抽象彫刻の制作、発表活動を自由に行ってきました。石彫はパブリックアートとして野外設置されて、恒久的モニュメントとして存在する例が多いことで知られております。私の場合も野外彫刻、パブリックアート隆盛の時代を通過してきた関係上そのような彫刻の展開をしてきました。室内の画廊に置かれる設定から、日の光の下で野外の大きな空間の中で彫刻が展開する可能性を追求してきたのです。しかし最近では、彫刻の存在する環境がどうであれ、問題は彫刻作品が持つ「力」であると思っています。この「彫刻的力」の問題と私がこの学科で教えている関係上、どのようにその「彫刻的力」を「現代社会」に違うのかという問題があります。ある地方行政の中核にいる方が「美術は腹を満たしたり実用的な利点はない」というような意味のことを芸術活動の褒賞の場面で発言されたことを聞きました。それを聞いた人は大変憤慨していましたが、大変残念なことです。我々は美術家としての制作活動と同時に美術を広め、心躍り、作者も鑑賞者の心も良い方向に動く活動を展開することが重要です。私がしばらく滞在しながら彫刻の制作活動を行ったエジプトやモンテネグロでも多くの市民が彫刻や絵画にとっても興味を持っている印象がありました。オーストリアのウーンでも多くの市民が美術館に集まり芸術作品を、親しみを持ってリラックスしながら鑑賞していたのが印象的でした。私が、国際彫刻シンポジウムや国際交流展、大規模なアート展を企画して仙台で開催してきたのはこのような意図があったからです。今後も私の「実践研究発表」としての「作品」と「展覧会活動」はライフワークとして継続してゆきたいと思っています。

私の研究

短大 生活文化学科 教授

松尾 広

専門分野: 情報工学
主な担当科目: 情報処理



コンピュータで人の声を理解する音声認識(パターン認識)の研究で学位を取得し、その後関連する分野であるニューラルネットワークや遺伝的アルゴリズム、本学に着任してからは教育向けのコンピュータの利用環境について研究しています。

もともと音声認識はコンピュータで人間の知的活動を実現する人工知能(AI)の研究の一分野でした。人工知能の研究は1950年代に始まり、流行り廃りを繰り返しながら、囲碁・将棋での対局、車の自動運転など、最近またブームになっています。

人の声の特徴は、声の「音色」の時間変化の中に含まれています。人は耳でとらえた音の特徴を脳で理解しているのですが、これをコンピュータで実現するのが音声認識です。別の言い方をすると、音の特徴という入力に対して言葉・記号を出力する関数を作ることにほかなりません。入力と出力との関係が完全にわかっているときには問題がありませんが、人の声でそれを見つけるのは極めて困難ということが知られています。例えば、同じ言葉を別の人が話したとき、物理的特徴(音色の時間変化)を分析すると、とても同じとは思えない違いがあります。同じ人が同じことを話しても物理的特徴は毎回変化し、全く同じということは絶対ありません。

人工知能の技術が、この関数を求めるのに使われます。この入力ではこう出力するというペアをとにかく大量に集めておいて、人工知能の技術を使って関数を学習させていきます。最近よく話題になる「ディープラーニング」は、これを効率的に行う手法です。

コンピュータが人に追いついたのは、極めて限られた分野にすぎません。人工知能に関わる研究をしていると、つくづく「人ってすごいな」と思います。

短大 生活文化学科 教授

池田 展敏

専門分野: 統計物理学、確率過程論
主な担当科目: 統計学、栄養情報処理演習、コンピュータサイエンス概論、数学基礎演習



生活文化学科に食物栄養学専攻が開設されてから、もうじき5年目を迎えています。その教育内容は、栄養学などの基礎理論から給食管理の実践的学習まで、たいへん幅広いものです。食物系が私の専門分野というわけではありませんが、学生と関わる上で必要と思うことは、理解のため自学することもあります。

そういった中、私が興味深く感じるの、生物システムに見出される高度に組織化されたネットワーク構造です。例えば、生物が栄養素を利用する過程では、化学反応の生成物が、また新たな化学反応の反応物となり、それらが連鎖することで、あらゆる化学種が見事に使い回されます。また、体内で合成できないため、他の生物種に作ってもらって摂取する必要がある必須の栄養素の存在は、人の仕組み自体が、他の生物種の存在を前提としていることを示しています。

このような「代謝系」や「生物種の相互依存」のネットワークは、長い進化の過程でどのように生まれてきたのでしょうか。おそらく、人工物のように意図を持って設計されたのではなく、偶然の出来事を繰り返しながら、自発的に形成されてきたのでしょう。

私の研究分野は「統計物理(特に複雑系の数理)」といったところですが、その分野でも、生物系ネットワークを含む様々な現実ネットワーク(インターネット、社会的ネットワークなど)が、「複雑ネットワーク」と総称され、盛んに研究されています。私自身、コンピュータを使ったモデル系の研究を通じて、現実ネットワークに見られる典型的構造が単純なランダム過程から自然に生じることを、少しずつ明らかになりました。とはいえ、モデル系と現実ネットワークには隔たりがありますし、構造はネットワークの興味深い性質のひとつに過ぎません。ネットワークの研究には、まだまだ進展の余地がありそうです。

「逆転！ファッション」 中里周子×岩淵貞哉 特別対談

九月二十九日、学校法人三島学園公開講座東北生活文化大学講演会を開催しました。今回は、ファッションデザイナーの中里周子氏現在東京藝術大学美術学部芸術学科博士課程在学と美術手帖編集長の岩淵貞哉氏による対談形式の講演会となりました。

中里氏は昭和六十三年生まれでまだ二十代の若さですが、平成二十三年立教大学文学部文芸思想専修を総年で卒業された後、ファッションを学び、二十四年東京藝術大学大学院に入学、二十六年引き続き同大学博士課程に進まれました。博士在学中に欧州ITTSにて日本人初のジュエリー部門でグラプリを受賞、アートフェア東京にて、美術手帖賞、平山郁夫文化芸術賞受賞等、さまざまな所で注目を浴びる最先端のファッションアーティストとして活躍されています。



美術手帖編集長の岩淵氏は十四年美術手帖編集部に入社後、二十一年に編集長となり、二十四年より同社編集部部長を兼任されておられます。二十六年中里氏の美術手帖賞受賞が縁で、二十七年八月号美術手帖表紙の堀未央奈乃木坂46を中里氏にディレクションを依頼し最新のアートシーンとファッションの最前線をつなぐ特集を組まれました。



服飾文化専攻十周年

東北生活文化大学家政学部家政学科に服飾文化専攻が改組誕生し早十年になろうとしています。お陰様をもちまして、昨年末



の服飾十周年記念イベントも成功裏に終了することが出来ました。参加していただいた同窓会をはじめとするOGOBの皆様や関係各位に深くお礼申し上げます。さて、今の本専攻の状況ですが、本専攻自体の他大学に例を見ないユニークな存在と少人数教育に磨きをかけることを、教職員一丸となつて日々取り組んでおります。具体的に、各専門科目の講義・実習・実験が大学院のゼミ的雰囲気で行われていてと自負しております。

当専攻は他大学にはみられない特色のある存在です。一教員としてはこのことに誇りを持ち、さらには、三島学園女子大学から脈々と続いてきた、当大学の根幹を引き継いでいる専攻であることを深く心に刻み、これまでどおりコツコツと努力を続ける覚悟ではございますが、当専攻に関する忌憚のないご意見などございましたら幸いです。また同時に、至らぬことや力及ばぬところも多々あるとの認識もしておりますので、どうかご指導ご鞭撻の程、何卒よろしくお願い申し上げます。最後になりましたが、今後とも教職員そして学生諸君一体となり、関係各位のご期待に応えられるように努力してまいります。



アイリンブループロジェクト

昨年、同じ三島学園にある学校として、高校の生徒会と大学の学友会とがスクラムを組む高大学生徒会連携がスタートしました。その活動のついでに合同ボランティアがあります。今はアイリンブループロジェクトというボランティア活動を行っています。このプロジェクトは、震災の際に生まれた希望である「奇跡の花(フランス菊)」を宮城から東北、全国へと広めていく活動です。プロジェクト関係者と共に、本学園が舞台(ボランティア)となつて展開されています。昨年七月から始め

ています。九月には五号館と図書館の間に花壇を作り、植樹イベントを行いました。十月のプロモーション映画の撮影には高校生と大学生ボランティアが活躍してくれました。十二月の試写会には多くの報道関係者が集まり、更にはエグザイルのHIRO様よりお花のお祝いをいただき、影響の大きさを感じているところです。学内に入れば誰でもこのお花を見ることが出来ますが、今後は育つたこのお花を全国にプレゼントしていく活動が始まります。



アイリンブループロジェクトは入選率2%の難関である(財)公園財団主催「夢プラン大賞」に入選し、全国から注目される取り組みになっています。それは同時に三島学園の名前を知つただくきっかけにもなっています。奇跡の花に囲まれた(五号館と図書館の間の)この道は、高校と大学をつなぐ幸せの架け橋なのだ、とまたか言つて下さいました。大事を取り組みにしていきたいと思つています。

事務職員紹介

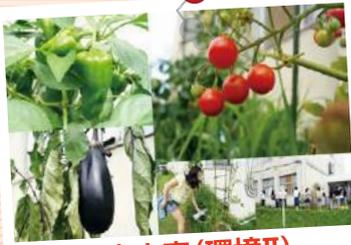


就職支援センター 学生課
津島 信夫

就職支援センター兼学生課所属の津島です。私の職務は、就職相談、履歴書ES添削、模擬面接等の就活支援、求人開拓、授業科目のキャリアサポートI・II並びに公務員試験対策講座や東京就活パスツア一等の企画・運営等の就職関連業務全般のほか、学内外の学生生活の支援と非常に幅広い分野を担当しています。何かと業務に追われる毎日ですが、丁寧で細かい支援で学生の就職活動と学生生活をサポートするように心掛けています。気軽ににご相談ください。

PHOTO ALBUM

(平成28年度後期)



保育内容(環境Ⅱ)

この野菜たちは、子ども生活専攻「保育内容(環境Ⅱ)」の授業の中で、育てたものです。身近な自然物を取り入れた保育として、泥だんご作りや夏野菜の栽培・観察を行い、みんなで育てました。



泉ヶ岳悠・遊フェス

昨年に引き続き、版画ゼミナールが「竹とんぼをつくってとぼそう!!」のワークショップを実施。自然いっぱいの泉ヶ岳で、色とりどりの竹とんぼが宙に舞っていました。



小中学生のためのファッションカレッジ

服飾文化専攻では、毎年、小・中学生を本学にお招きし、衣服やファッションに関わる特別講座を行っています。テーマは「オリジナルコサージュを作ろう」。



三島学園同窓会北海道支部総会

9月24日、支部総会50周年を記念して、学長が、「北海道の女子教育と三島学園」と題して、講演を行いました。集結した熱き思いの支部会の皆さんに鼓舞されました。



ボランティア同好会始動

ボランティア同好会が発足。「アインブループロジェクト」や「パティウォーク仙台2016」などのイベントへの参加。構内の落ち葉拾いや雪掻きで大活躍です。



第1回スポーツ女子の「食」を支えるレシピコンクール「優秀賞」受賞

RanRun (<http://ranrun.jp/>)が主催する第1回スポーツ女子の「食」を支えるレシピコンクールが開催され、健康栄養専攻3年虻川由佳さんの「調理時間10分!のっけて焼くだけ納豆キムチドリア」が見事、優秀賞に輝きました。



みやぎ県民大学「調理の科学と食の安全」

今回の講座は、「調理の科学と食の安全」。講義だけでなく実験を交えながらの講座だったので、参加者の皆さん、目に見える変化等に応じ、驚嘆の声をあげていました。



大学祭

10月22日(土)、23日(日)、両日ともますますの天候で、「TSB FES 2016」が開催されました。お越しいただいた皆様、ありがとうございました。



モディリアーニにお願い

昨年生活美術学科を卒業した相澤いくえさんの「モディリアーニにお願い」が単行本化され、各メディアで話題沸騰中です。

©相澤いくえ / 小学館ビッグコミック増刊号連載中

就職支援センターから

◎企業の求人広報活動開始の3月1日に備える

就活スケジュールの一番のポイントは、企業エントリー受付開始(3月1日)から選考開始(6月1日)まで3ヵ月間しかないということです。この期間に企業選び、ES(エントリーシート)の提出、筆記試験等が集中します。2月までの間に自分の志望する企業を見つける準備を万全にしておく必要があります。

どのような準備が必要か項目を上げてみると、自己分析、業界・企業研究、履歴書・ES(エントリーシート)の書き方、筆記試験対策、面接対策、マナー対策などがあげられます。これらは本学の「キャリアサポートI・II」においてその対策などの指導をおこなっています。

特に試験が開始される6月は授業や実習等もあり、大変多忙になります。就職に向けた取組みは早ければ早いほど良いのです。

就職は自分の人生を決める上でとても大切です。就職支援センターはそのお手伝いをするところです。求人情報(百周年記念棟1F就職相談室)の閲覧、進路の相談などに積極的に活用してください。